

農家の軽トラEVに



あきた研究会 改造キット 来年発売目指す

秋田県内の自動車整備や機械部品製造17社と県、県立天などをつくる「あきたEV研究会」が、農家の軽トラックを電気自動車（EV）に改造するプロジェクトを進めている。改造費を100万円以内に抑え、2014年中の発売を目指す。

研究会は11年に発足し、この手応えをつかんだ。1回の充電で走行できる距離は30キロ程度。発売時には50キロまで延ばす考えだ。市販のEV改造キットは150万円程度だが、部品代や作業費を下げるなどして改造費を100万円以下にする。

農家の軽トラックに着目したのは、1家に1台とも言われ普及率が高いことと、要求される走行距離が短いためだ。田畑への往復や見回りが中心なら、1日に走るの5〜10キロ程度。大手自動車メーカー製のよう

に充電1回で100キロ以上走れなくても、実用に耐えられる。農村部ではガソリンスタンドが減っており、EVの潜在需要は少なくないという見

軽トラックを電気自動車に改造した試作車と研究会の鎌田会長

農村部 GS 減り需要 費用100万円以内に圧縮

込んだ。充電は7〜8時間。ガソリン車や軽油車の燃費に当たる電費は電力会社との契約によっても異なるが、平均するとガソリン車に比べ6分の1程度という。

県内の自動車整備業界は、とつてもメリットは多い。普及が進む大手メーカーのハイブリッド車やEVはディーラー以外の整備工場が手を出しづらいが、開発から携わったオリジナルEVなら修理が難しくもない。

県軽自動車協会によると、県内の軽トラック保有台数は約8万9000台（13年3月末現在）。全てEVに改造すると単純計算すれば、890億円のビジネスチャンスになる可能性を秘める。

研究会の鎌田学会長は「環境問題を考えれば、EV化の流れは止まらない。開発、生産、販売、取り付けと秋田の中で仕事を回すようにして、乗り遅れないようにしたい」と話す。連絡先は同研究会事務局の18(867)8400。